
アンダーヘアー・コネクション

アンダー・ザ・ヘアー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アンダーヘアー・コネクション

【Nコード】

N5104Z

【作者名】

アンダー・ザ・ヘアー

【あらすじ】

愛すべきアンダーヘアーなお話し。

(前書き)

爽やかに。

＊

青い空、きらめく波、素肌に心地よい潮風。
波打ち際には、多くの海水浴客が戯れている。

その中でも、一際目を惹くのは、白いビキニ姿で燥^{はしゃ}ぐ女性だ。

海よりも、空よりも、他の誰よりも素敵に輝いている。

その女性が、何と俺の彼女なのだ。

自分でも信じられない位に完璧な彼女なのだ。

彼女が俺に向かって手を振り、砂浜を駆けて来る。

俺だけにとびっきりの笑顔を向けて。白いビキニで一所懸命に駆けて来る

白いビキニを突き抜けた一本の黒いカイワレを靡^{なび}かせて。

笑顔が眩しい・・・。

- アンダーヘアコネクション -

＊＊

爽やかな日曜日の朝。

初めて訪れた彼女の部屋。

彼女は「どうぞ」と開けた扉の中へと俺を招く。

小ザッパリとした室内は綺麗に片づけられている。

窓からは、磨き上げられたガラスに微塵も遮られることなく、燦々と陽光がふり注いでいる。

俺は目を細めながら敷居を跨ぐ。

彼女に招かれるままに踏み入れたフローリングの床は、その光を受けて柔らかく反射している。

埃一つ無い床、彼女の清潔感が覗かれる。

埃一つ無い床・・・

んっ？

そこに、不規則に曲がった一筋の黒い影を発見。

俺の視線に気づいた彼女が、慌ててその影を踏みつけた。

引きつる笑顔も、また、眩しい・・・。

- アンダーヘアコネクション -

今日のデートはフレンチと洒落込んだ。

彼女の為にこの一か月間バイトを頑張つて来た成果だ。

初めての星付きレストランに緊張は隠せない。

食事を口へと運ぶ手が、何処かきこちなくなれば、食べた物の食感も・・・？

緊張のせいではなさそうだ。口の中で確かな違和感がある。

歯に纏わりつき、舌にはざらつきを感じる。

さすがに飲み込むには抵抗があるので、巧みに舌を使って口先まで持って行き、その先端を唇で挟む。

唇に伝わる感触からは、先程よりも若干の太さと硬さを感じる。

彼女の前ではあったが、俺は思い切って指で摘み、そいつを口から引き出した。

ポヨン。

口から出た瞬間に、形態を記憶しているが如くと丸みを帯びる。

それを見つめる俺と彼女。

そいつは、先細で想像よりも短く、捻^{ひね}りが加わっている。

ダブルアクセル、2回転半ね・・・。
彼女が呟く。

・アンダーヘアーコネクション・

彼女が暮らすマンションのトイレはピンク色をベースに、十数匹の有名キャラクターの白い犬が戯れている。

小ザッパリした部屋とは対照的に、少女っぱさが可愛い。

俺は思わず便器を抱きしめなくなるが、今の俺の要件はそれでは無い。

”小”を便器の中に一滴のミス無く納めることだ。

便器の蓋を上げ、便座も上げる。

ピンクのカバーの下から現れた、磨き上げられたパステルアイボリーの陶器は俺の目を眩ませる。

指で擦れば、間違いなく”キュッ、キュッ”と新鮮な音を上げることだろう。

だが、その陶器の鮮やかさが仇となる。

”残れし一本の黒い主張”を引き立たせてしまったのだ。

・アンダーヘアコネクション・

”小”と一緒に流さなければ、俺の所属物と言っ認識に落ち着くことであるっ・・・。

彼女との出会いは、二年前の高校3年の時だ。
彼女は某有名大学の2年生。俺の家庭教師としてやって来た時だった。

初日はドキドキで、上の空のまま、あっという間に終わってしまった。

俺は名残惜しさを胸に、彼女の座っていた椅子をそつと見た。
すると、椅子の先に、何やら愛嬌を振り撒く黒いものがユラユラとぶら下がってる。

俺はそれを手に取り蛍光灯にかざしてみた。

折れたり、捻じれたり、先だけ異様に細かったりしている。

俺は数学の教科書の56ページに、栞代わとして挿むことにした・・・。

俺と彼女の記念。

アンダーヘアコレクション。

- アンダーヘアコレクション -

<おしまい>

（後書き）

そして、軽やかに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5104z/>

アンダーヘアー・コネクション

2011年12月17日10時51分発行